

中野区教育委員会会議録

平成30年第15回定例会

平成30年6月8日

中野区教育委員会

平成30年第15回中野区教育委員会定例会

○日時

平成30年6月8日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時10分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 田辺 裕子

教育委員会委員 渡邊 仁

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 小林 福太郎

○欠席委員

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○出席職員

教育委員会事務局次長 戸辺 眞

教育委員会事務局副参事（子ども教育経営担当、学校・地域連携担当）

高橋 昭彦

教育委員会事務局副参事（学校教育担当） 石崎 公一

指導室長 宮崎 宏明

教育委員会事務局副参事（子育て支援担当） 古川 康司

教育委員会事務局副参事（児童相談所設置準備担当） 神谷 万美

教育委員会事務局副参事（子ども特別支援担当） 中村 誠

教育委員会事務局副参事（保育園・幼稚園担当） 濱口 求

教育委員会事務局副参事（幼児施設整備担当） 板垣 淑子

教育委員会事務局副参事（子ども教育施設担当） 石原 千鶴

○書記

教育委員会事務局教育委員会担当係長 金子 宏忠

教育委員会事務局教育委員会担当 香月 俊介

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田辺 裕子

教育委員会委員 田中 英一

○傍聴者数

10人

○議事日程

1 協議事項

(1) 新校舎に整備する普通教室について(子ども教育施設担当)

2 報告事項

(1) 教育長及び委員活動報告

① 6月1日 中野区立白桜小学校訪問

(2) 事務局報告

① 平成30年度就学前教育の充実に向けた取組について(指導室長)

② 平成30年度中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校等について
(指導室長)

③ 平成31年度使用中野区立中学校教科用図書採択に係る教科書展示会の実施について(指導室長)

④ 中野区立中学校教科用図書選定調査委員会調査研究会の設置について(指導室長)

○議事経過

午前10時00分開会

田辺教育長

おはようございます。

定足数に達しましたので、教育委員会第15回定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、田中委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

なお、事務局報告の4番目「中野区立中学校教科用図書選定調査委員会調査研究会の設置について」は非公開を予定しております。

それでは、日程に入ります。

<協議事項>

田辺教育長

協議事項「新校舎に整備する普通教室について」を協議いたします。

初めに、事務局より説明をお願いします。

副参事（子ども教育施設担当）

みなみの小学校、美鳩小学校、仮称中野第一小学校、中野東中学校の新校舎につきましては、開校に向けた設計業務を現在進めているところでございます。中野区立小中学校施設整備計画における標準仕様を踏まえまして、整備していく新校舎の普通教室の整備につきましてご説明させていただきます。

まず、資料1番目でございますが普通教室の整備の主な視点といたしまして、多様な学習形態に対応できる環境を整備するとともに、児童、生徒が生活していく上で魅力があり、また、安心して過ごすことができる場として整備を進めていくというところでございます。別添資料のほうに普通教室の展開図及び完成予想図をつけておりますので、そちらもあわせてご覧いただければと思います。

整備の主な視点でございますが、まず一つ目といたしまして採光、通風等の確保に留意するとともに、学習環境として求められる掲示スペースを壁面に十分確保するというところでございます。また、教室の前面にスライド可能な電子黒板を整備するほか、視認性や利便性等に留意した黒板を整備してまいります。こちらの黒板につきましては、小学校については黒板で整備すると考えてございまして、中学校につきましてはホワイトボードと考えるございます。

次に、児童・生徒にとって豊かな教育環境となるよう天井形状を工夫の上、整備いたします。こちらにつきましては美鳩小学校につきましては、天井内に配管等のスペースが出てくるため、前面のほう、なるべく教育の空間を広くとれる形で配慮したスペース、天井形状を工夫した上で整備しております。また、内部収納や掃除用具入れなどの収納設備を作りつけにより整備してまいります。

今後の予定でございますが、新校舎の供用開始時期につきましては、平成32年度9月にみなみの小学校、美鳩小学校、平成33年4月に仮称中野第一小学校、中野東中学校を開始予定でございます。

ご説明は以上になります。よろしくお願いたします。

田辺教育長

ただいま事務局より説明がございましたが、現在4校の新校舎の設計を進めているところでございます。その中で、今後の普通教室のあり方などを整理する必要があると思えます。本日は、事務局から提示された計画策定中の資料をもとにいろいろなご意見を伺い、今後の整備の考え方について整理をしていきたいと考えています。

ここで、本日欠席の伊藤委員からあらかじめ本件に関するご意見を伺っておりますので、事務局から紹介をしていただきます。

副参事（子ども教育経営担当）

伊藤委員の意見をご紹介します。2点ございます。

1点目でございますが、展開図及び完成予想図では小学校は黒板、中学校はホワイトボードを使用するようになっているようですが、小学校と中学校で黒板とホワイトボードを使い分ける理由はあるのですか。むしろこれからは小学校においてもホワイトボードを活用してはどうかと考えます。

2点目でございます。教室における廊下側の窓の有無や大きさ、窓側の窓の大きさに違いがあるようだが、これからの教室はもう少し開放感があるほうがいいのではないかとと思う。

以上でございます。

田辺教育長

伊藤委員のご意見をご紹介します。

それでは、各委員からご意見を伺いたいと思います。

田中委員

私も今、説明を聞いていて小学校は黒板で中学校は白板というところが。その理由を先に聞かせていただければと思います。

副参事（子ども教育施設担当）

小学校におきましては、例えば字のとめ、はね、はらいを正確に教えていくというところがございますので、黒板の使用を基本として整備しているところでございます。

田中委員

現場からそういう要望というのもあったのだらうと思いますけれども、私は実際に現場で教えているわけではないですけれども、白板でも十分に対応できるのかなという気もしますし、やはり白板のほうが明るかったりとか、いろいろな意味でメリットもあるのかなと思うので、その辺をもう一度検討していただければと思うのですけれども。

田辺教育長

今、田中委員からホワイトボードのほうがというご意見がありました。伊藤委員からもご意見を伺っておりますが、ほかにご意見ございますでしょうか。

渡邊委員

私も黒板にする意味というのがあまりよくわかりません。例えば、昔、黒板が出てきてその後にホワイトボードが出てきて、ホワイトボードが主流になってきているのは世の中では当然だと思います。ここの部屋にもそこにホワイトボードが置いてありますし。

なぜそうなったのかというと、あらゆる面で黒板よりもホワイトボードのほうが使い勝手その他等に利点があるからみんな使っていくのではないかなと。単純にそういうところを思っております。

そういう意味では、新しい学校をつくっていったって少しでも新しいものを取り入れていくという姿勢から考える。そうすると今、このパースを見ていただいても壁に黒い黒板があると確かに印象的ではございますけれども、中学校の白板のほうを見ると部屋が全体的に明るく感じるとか、そういう意味では影をつくりにくい。そして、今は映像なんかを使って授業をするということであれば映し出していくということで、今、小学校ではわざわざスクリーンを下げているわけですが、そういったことに関しても二重に使えると。

掲示に関しての問題については、確かに黒板だって磁石が入っているのでくっつきませんが、少しでも新しい学校には新しさを感じさせる何かということで、印象的である黒板のようなどころに変化を与えていくというのは、これからの学校ではいいのではない

かなと、私は白板のほうが望ましいと思います。

それと、窓の件についてちょっとお話があったのですが、これは一番最初に施設担当の石原副参事よりお話があったように、学校は小学校その他等で掲示物のためのある程度のスペースが必要ということがあるのですけれども、やはりここは技術ですから、掲示物のルールを守りつつデザインと明るさをうまく取り入れた、とにかく開放感があるとか。今はどちらかというとレストランなどでもフードコートみたいに壁が取り除かれるような時代ですから、そういう意味では開放感あふれるようなものがないと私も感じます。

窓ガラスには規制があるかもしれないのですが、ドアのガラスに大きいのと小さいのがあったのですが、これは何か意味があるのですか。

副参事（子ども教育施設担当）

こちらの資料につきましては、まだ検討段階というところでイメージをお伝えしているところがございます。今、お伺いいたしました委員の先生方のご意見等踏まえまして、そういった開放的な空間、また、明かりを取り入れるような空間というところを考えていきたいと思っておりますので、その中で窓の形状またドアの形状等については検討していきたいと思っております。

渡邊委員

ありがとうございます。以上です。

田辺教育長

よろしいですか。ほかにもございますでしょうか。

小林委員

黒板かホワイトボードかということに関しては、各委員の先生方のご意見と同じように私もホワイトボードで何ら問題がないかなと思っております。先ほどの国語の漢字の指導に関しても、ほかの地域を見ても別に問題なく行われています。

前にもお話ししたと思うのですが、新宿区の公立の全小学校・中学校は、もう10年ほど前から全部ホワイトボードで行っていますし、それから書きづらいというご意見もありますが、それはただ単に慣れの問題で、黒板もうちの大学の学生なんかも最初は「書きづらい、書きづらい」と言ったわけで、これは慣れの問題でありますので、いろいろなことを総合して考えた場合、ホワイトボードで全く問題ないと思っております。

ただ一つ、考えていく必要があるのは、最近ホワイトボードでもいろいろな質のものが

あるのですね。非常にてかりのあるものと、艶消しのようなものもあつたりします。ただ艶消しのは、雰囲気としては落ちつくのですけれども、どうしても跡が残ります。ですから常にぬれた雑巾を置いておいて、そしてそれで拭くというシステムもあります。ですからそのあたりのところを、ホワイトボードの質をどういうものを入れていくかという段階で検討されればいいかなと思っています。

それからもう一つ、このホワイトボードと関連してなのですが、各教室に電子黒板があるわけですが、これは要望というか可能であればぜひということなのですが、どうしても教室の子どもたちから見て正面左側にこれが設置されているわけです。今、レールをつければこれを真ん中にも持って来られたりとか、先生方が自在にその場所を選べるという。基本的には真ん中に置くのが子どもたちにとって一番見やすいと思うのです。廊下側の子どもからすれば非常に見づらいというか。最近は画面の性能もよくなって、窓の光によって見えないということはあまりないと思うのですが、それはそんなに大きな経費もなくやっていると思います。地区によってはプロジェクターを黒板の上に動かせるように、大した機材でもなくやっています。それは指導のさまざまなバリエーションというか、そういったものが可能になりますので、そういう使い勝手をぜひ検討していただきたいなと思います。

それから、ホワイトボードと離れますが、私は先々というかぜひご検討いただきたいことがあります。それは、小学校・中学校にもそろそろ教壇というものを導入してみてもいいのかなということです。戦後、公立学校に関しては一体感を持つということでそういったものを全部取り除いた背景があると思うのですが、私は極めて単純に考えておりまして、必要であれば先生が降りればいいだけの話で。

それからもう一つは、上から見れば子どもたちのことをより把握できる、さらにはホワイトボードの位置も少し高くできる、さらには小学校などは特に低学年を中心にわざわざ山台のようなものを用意して子どもたちに授業に参加させるというか、黒板に何か書かせているというものが見受けられます。

ですから、教室内が狭くなるかという意見もありますが、最近はそういう意味では少人数の学級も増えてきていますし、そういったところも少し検討してみたほうがいいのかなと思います。

それから、これは基本設計なので、なかなか今こう言ってもというのはあると思うのですが、教室は一般的には黒板を正面にして縦長なのですが、最近は横長の教室が増

えてきているということだったのです。改めて考えてみると、そのほうが子どもたちにとっては、一体感が出るというのですか。教室環境としては非常にいいと思いますので、今、黒板からホワイトボードへという話がありましたけれども、教室の形状も含めてこれまでの学校の建築というものをいろいろな面から見直していく必要があるのではないかなと私は思っています。

話が拡散してしまって申しわけないのですが、一応私が考えているところは以上です。

副参事（子ども教育施設担当）

電子黒板につきましては委員のご意見のとおり、現在スライドレール式の電子黒板を整備する予定でございますので、中央で電子黒板を使うといったところはできると考えてございます。

渡邊委員

先日小学校に行ってきたら確かに教壇がないとみんな同じ平面に座って黒板を見ると意外に見えないのですね。私達は後ろに立って見ているから見えるのですけれども、実際には大きい子が後ろに座ればいいという、大きい子は全員後ろで小さい子が前だという、そういう決まりになるのかと。私達のときはそうだったのですね。成長の差があって大きい机と小さい机があって、小さい子はちょっと小さい机に座らされて、大きい子は大きい机で。私は小さかったのでいつも真ん中の一番前だったのですけれども、何か見張られているみたいでずっと嫌だなと思っていたのです。

また後で言いますがけれども、教壇がないと黒板ではなくてテレビが見にくいという意見が子どもたちからあったのですね。そうやって見ると、確かに子どもたちが前に出て発表してもやはり見にくいのです。前に行けば台の上に乗かって立つという、それが見下しているとか見下げているとかという問題ではなくて、逆に言うと自分が台の上に乗っているというぐらいの気持ちのほうがかえっていいのかな。そうすると黒板も高くできる。だから、その教壇がどうこうという話でもないのですけれども、そういったものは可動式だったりとか一部置いておけるような形で、教壇の前なんかそういうのがあったって決して悪くはないかなと。教壇というとなんかあれなのですから、舞台ということですよ。

それと、そういう意味では電子黒板なんかは自分で書くわけではないから、横のスライドだけではなくて縦に、上に上がる。それか、もともとレールの高さで上に上げておくと。テレビでも大学とか病院とかでも、テレビは全部上からです。こういうふうになら全部見せていますので、置いてみるという形ではなくて当然設置する時点から高い位置に。黒

板は書かなければいけないですけども、書くものでなければ視認性というものをよく考えていただいて。映画館だって階段になっているわけだし、フラットなところだったらクレームが来ますから。だからそういう意味では見やすいものをつくったほうがいいかなと。

今回、学校訪問をしていて教壇もあって、確かに教壇があるとそういう点では昔らしさというか学校らしいというか、そういうのもあっていいかなと。そのあたりはまた今後の検討になるかと思うのですけれども、ただ、見やすさということは大切だと思います。後ろの方も頭が邪魔になって見えないとか、そういうことのないような形をつくる必要があるのではないかなと思います。

以上です。

田辺教育長

ほかにございますか。

田中委員

白板のことではないのですけれども、学校はどうしても木目だとかクリーム色とか白という色合いなのですけれども、最近、小児病院なんかは子どもたちが少しでもうきうきした気分になるように割と原色を使ったり、例えば眼科のところは「眼科」というのではなくて「黄色の部屋」とか。そういう色づかいを結構しているので、視点のところにも「児童・生徒にとって豊かな教育環境となるよう」と書いてあるので、何かまだ今後の課題として少しそういうカラフルというのではないのですけれども、子どもたちが来て楽しいような雰囲気も出せる部分があればお願いしたいと思います。

田辺教育長

よろしいですか。ほかにございますか。

それでは、協議についてまとめさせていただきます。

ただいま、さまざまなご意見をいただきました。黒板かホワイトボードかということでは小学校でもホワイトボードを導入してはどうかということ。それから電子黒板の位置など、教壇や横長の教室、あるいは色づかいについてのご意見をいただきました。

出されたご意見につきましては、普通教室整備の考え方として事務局として整理をさせていただいて、別途ご報告をするということでそれぞれの計画については進めさせていただきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

それでは、そのように取り計らいをお願いします。

本協議については終了させていただきます。

<教育長及び委員活動報告>

田辺教育長

続きまして、報告事項、教育長、委員活動報告について事務局から一括で報告をお願いします。

副参事（子ども教育経営担当）

画面をご覧ください。

6月1日金曜日、中野区立白桜小学校に田辺教育長、伊藤委員、渡邊委員、田中委員、小林委員が訪問をしました。訪問先では3、4時間目の授業を視察し、児童と一緒に昼食をいただきました。また、午後は体育館で6年生との対話集会を行いました。

資料の2枚目になりますが2年生、4年生及び5年生の英語・外国語学習等の授業視察の様子になります。

続いて資料の3枚目でございます。こちらは児童との対話集会の様子でございます。グループに分かれ「中野区の未来について」「ごみの分別の問題」「バリアフリー化」などのさまざまなテーマについて発表がありました。また、ソーラン節の披露もあり、子どもたちの元気な姿を見ることもできました。

報告は以上でございます。

田辺教育長

各委員から補足、質問、その他の活動報告がございましたらお願いいたします。

田中委員

まずは学校運営がともしっかりできているように感じました。特に英語教育に実践校として学校で取り組んでいて、授業もいろいろ工夫をされておりましたけれども、階段の垂直の部分にも、各ステップごとに英語と日本語が書いてあって、学校生活の中で英語になじむような雰囲気づくりをしていたのがすごく印象的でした。

あともう一つ、校長先生が心配されていたのですけれども、非常に若手の先生が多いということで19名教員がいらっしゃる中で40歳以下の先生が15名ぐらいなので、これから若い先生方の実践力アップが課題ですということをおっしゃっていました。実際に授業とかを見てみると、とても一生懸命、熱心に若い先生方も取り組んでいて、このままぜひ伸びてほしいなと強く感じました。

あともう1点、教室に「姿勢を正しましょう」という張り紙があったのですね。そのときに机と椅子が、段階的に高さを調節できるテーブルと椅子の写真が張ってあったのですが、教室を見ると教室は3段階ぐらいですか、それぞれ調節できない大きさの机と椅子が置いてあったのですけれども、私達も食べる指導をするときに姿勢というのをすごく大事に言うのです。子どもたちはどんどん身長も伸びていく中で、きちんと足が床についてという格好の、調節できるようなものがないのかなと感じたのですけれども、現状としてどうなっているのでしょうか。

田辺教育長

それはちょっと確認をさせていただきます。

田中委員

教育環境は、私はすごく大事な部分だと思うので、ぜひお願いします。

田辺教育長

今の最後のご質問については、事務局内で確認をさせていただきたいと思います。

ほかにございますか。

渡邊委員

こういう学校訪問に行ってくると、とにかくいろいろ思うことがいっぱいあって、まず最初に学校訪問に行ってその学校を見て、私はいつも言うのですけれども、施設の問題について。統合になったのが10年前で、昔の学校を使って少しリフォームはしているけれども、基本的に老朽化が著しくて、そして手を入れなければいけない部分が多いなど。これは行政側としてはすぐやりたいところだけれども、順に手をつけていかなければいけないのだなど。建物だけを見たらそういうふうに、まず。でも、すぐにといっても建てる場所はどうするのだ、工事中はどうするのだと言われたら大きな問題が幾つもありますので、それを一つずつ真剣に取り組んで解決していかなければいけないなど。これについては必ずやらなければいけない、これをする時期はいつなのかはまた事務局のほうというか、区のほうで予算を組んでいく形になるのだらうと思いますけれども、我々の意見としては最優先事項として、老朽化に対する対応を順次行っていただきたいというメッセージを残したいと思います。

そして次は、学校経営です。宇賀神校長先生の学校経営について、見学が始まる前に伺いました。「自律する力」「協働する力」「参画する力」、この3本の柱で頑張っていきますという形で詳細をお話しいただいたわけですが、そういう意味では学校長がしっか

りした学校経営の方針を持っていると。その説明を受けた後にそういう形で参観すると、そういったことが各教員にも浸透して実践されているのではないかなと実感されて非常にすばらしく、統制がとれるというと嫌われる方もいますけれども、非常にしっかりした学校経営がなされているのではないかなと感じました。

あと、その説明の中に学校の構成ですね。28年度には学級数が14で生徒の合計が390名でした。29年度は学級数こそ変わらないですけれども417名。これで大体30名近く増えている。30年度に至っては1学級増えて15学級451名と。やはりこういうことがあって、今後もまた必ずしも我々が予測した人数がそうなるわけでもないし、そういうことを考えると学校のキャパシティー、箱の大きさから限界点というのも見えてきてしまうと。こういうあたりも我々教育委員会としては、将来というか近未来をしっかりと見据えて対応を求められるのではないかなと。これからどうするというわけではなくて、こういった事実を受けてどうやって対応していくかということを検討しなければいけないかなと感じました。

それと、次は単なる感想です。今、田中委員が言われたように若い先生が多いと言われたのと、実はここの教員数が全員で12名いらっしゃるのですけれども、女性が10名で男性が2名なのです。今の小学校はこういうものなのかなと。そのあたり、男女参画とか平等だとかそういう意味で、もしかしたら今後は人数の配置なんかも検討していく課題にもなるのかなと。女の子だけの学校でもないし、男の子だけの学校でもないという、そういったところを見ると偏在ということも今後考えていかなければいけないのかなと。これもインプレッションとして感じた事実です。

あと、子どもたちの様子ですけれども、子どもたちは非常に明るく楽しく学校生活を送っていると。私は学習よりも皆さんが楽しく十二分に、学校で笑顔で生活できているかを一番重要としていますので、そういう点では非常によかったのではないかと。

英語教育に関しては、教育者ではないのでわかりませんが、小学校でここまでやるのだと。疑問文で5Wを使っているような英語を小学5年生ぐらいでやっているとなると、私達の中学1年生の「This is a pen」はどこへ行ってしまったのだろうと。その辺は言葉の授業ですから、外国の子であればみんなしゃべっているわけですから、どのあたりで切り出して、どのあたりでやっていくのかというのはこれからの教育で時代は変わったなと思いつつ、でも子どもたちが英語も楽しそうに嫌うことなく楽しめるという意味では、私達が中学校の時代と英語の感覚が随分変わっている。英語を覚えるのだと

いう感覚からではなくて、会話としての英語という形で自然に溶け込んでいるかなど。そういう意味では教育の進歩というのをすごく感じました。

給食は今回ピラフと鶏肉とお野菜とスープと。相変わらず非常においしいですね。牛乳は紙パックでした。とても冷えていておいしくて、最後に、あれはオレンジではなくて夏みかんなのか出ていて、子どもたちが手を洗っているかどうかわからないですけれども、夏みかんは手で食べなくてはいけないから結構手が大変で食べにくいなど。ただ、それは教育上食べにくいとか手を洗うとか、これはどういうものなのかわからないですけれども、私もティッシュを持っていたからよかったけれども、手がちょっと汚れてどうしようと思っ

ていて。そういう形で、給食はとてもおいしいですね。

給食の食器も陶器になっています。昔の私達のプラスチック、私は1年生として入ったときには金属のアルマイトみたいなものだったのですけれども、今は陶器です。陶器もノリタケの陶器ですよ。裏をちゃんと見てきました。食器もノリタケのすばらしいものを使っていて、非常においしく食事もできるのではないかなと思いました。

最後の対話集会はグループごとに分かれて、私のところでもお話をさせていただいたのですけれども、今回は自分のテーマは「高齢者のためのまちづくり」とか「自然を残す」とか「児童館を残してほしい」とか子どもの要望を伺いました。ディスカッションが非常にすぐれていて、児童館を残してほしいなんていう意見を聞くと、本当に残したい気分にもなってしまうぐらい説得力のあるお話がしっかりできていたと思います。

長くなってしまったのですけれども、一応、概況報告ということでお話しさせていただきました。

田辺教育長

ほかにございますか。

小林委員

私も白桜小学校のことで幾つか簡潔に申し上げますと、管理職の先生方がいい意味でしっかりと管理されていて非常にリーダーシップを発揮されていると。先生方も組織というものを考えてしっかりと動いていらしたなという印象をもちました。子どもたちもとても爽やかな子どもたちでした。

特に、今、渡邊委員からもお話があった対話集会なのですけれども、子どもたちの発表というか内容、それからそのときのやりとりで、小学生を侮ってはいけないなど。中身のある深い意見を述べていたというのが非常に印象的でした。

それから給食なのですけれども、おいしいということで今、話がありました。これはちょっと蛇足なのですが、私は今、本務校でちょうど学生が教育実習に行っているシーズンでそこへ訪問して挨拶に行くのです。あえて近隣の県と申し上げておきますが、たまたまちょうど昼どきになってしまって「先生、きょう欠席がいるので給食を食べていきませんか」と言われました。一度はご遠慮申し上げたのですが、管理職の先生もどうぞどうぞということなので、これはちょうどいい機会だなと思っていただけてきたのです。その結果どうだったかという、中野の給食は全てにおいて素晴らしいなということです。質、量、とにかく品数もそうですし、ちょっとこれでは気の毒だなと、比較してしまうと余計感じますね。そういう点では私自身も勉強になったということで、あえて報告させていただきました。

以上です。

田辺教育長

ほかにございますか。よろしいですか。

いろいろありがとうございました。

<事務局報告>

田辺教育長

続きまして、事務局報告に移ります。

事務局報告の1番目「平成30年度就学前教育の充実に向けた取組について」の報告をお願いします。

指導室長

「平成30年度就学前教育の充実に向けた取組について」、ご報告をいたします。

就学前教育と学校教育とが一体となった施策の展開及び各校園への指導・助言等の充実を目指し、今年度から子ども教育部保育園・幼稚園分野にあった就学前教育推進担当を教育委員会事務局指導室へ組織改編いたしました。今後、子ども教育部保育園・幼稚園分野と連携しながら、以下の事業を実施してまいります。

1番目は平成24年度に策定しました「中野区就学前教育プログラム」を見直して、今回は理論編と実践編に分けて策定してまいります。まず、今年度はその手始めといたしまして、新しい幼稚園教育要領や保育指針等、そしてその中に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」などに留意して理論編をまとめてまいります。次年度に、それをもとにした実践編に取り組んでまいりたいと考えております。

2番目は連絡協議会でございますが、区内の全ての保育園、幼稚園、小学校が地域ごとの四つのブロックに分かれ、それぞれの情報共有や協議を行ってまいります。

3番目の連携教育検討委員会は、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校、中学校における連携のあり方を継続的に検討し、相互の理解と次の学校段階への円滑な接続を目指します。今年度は先ほど述べました中野区就学前教育プログラムの理論編について、重点的に協議してまいります。

4の合同研究会は、区内幼稚園、保育所、認定こども園から研究員を募り、テーマごとの研究分科会で実践研究を行います。本区就学前教育の質の向上を目指してまいります。今年度のテーマは二つございまして「教育・保育」こちらに15名、そして「運動遊び」こちらに22名、この二つのチームに分かれて、さらにそのチームの中を子どもの年代ごとに分けて協議してまいります。

5は、教員や保育士の資質向上を図るために、講師を招いて年5回、講演会を開催しております。

6は、平成26年度に策定した「中野区運動遊びプログラム」を活用した啓発を行ってまいります。こちらは改定しないのですけれども、このようなものでも、こちらを次の園訪問の話はしますけれども、そこに行った際にぜひ活用していただくような啓発を行ってまいります。

7は、組織改編の結果、教育委員会事務局に置かれた就学前教育推進員、担当職員に担当指導主事を加え、三人のチームを組んで、現在も幼稚園、保育園、認定こども園を巡回訪問しております。専門的な指導・助言を行い、区全体の就学前教育の充実を図ってまいります。

報告は以上です。

田辺教育長

今年組織改正をして、指導室に就学前教育担当を設けたということで、今年度の事業内容についてご報告させていただきました。

ご質問等ございますでしょうか。

田中委員

幅広い事業だと思うので、ぜひ着実に進めていただきたいと思います。

一つ、2番目の連絡協議会というのが毎年開催されていて、私も何度か参加させていただいたのですけれども、行ってみると結構小学校の先生は幼稚園とか保育園で何をされて

いるか、どんな教育を受けているか知らなかったりして、その辺のディスカッションというか「ああそんなことをやっているのですか」みたいな話がいつも出ているのです。これを年に何回も開催するのは多分不可能だと思うのですが、これだけ就学前教育をしつかりやっているのだということを小学校の現場の先生たちが少しでも知っていただけるような工夫もぜひ何かしていただけると、これにつながっていくのではないかなという感じがするのでよろしくお願いします。

指導室長

おっしゃるとおり、今、とにかく保幼小の接続というのがすごく学習指導要領その他で位置づけられておりますので、後でまた、次のことをご紹介しますけれども、これ以外でも保幼小はそれぞれ研究とかをともにしているところもございますので、今後とも推進してまいりたいと思います。

田辺教育長

ほかにございますか。

渡邊委員

こういうことは非常に重要なと私も感じております。どの仕事でもそうですけれども、接続だとかつながりだとか連携というのが、中でやっている分にはつまづかないけれども新たなところへ行くときにつまづく。ですから、申し送りだとかそういったものがないとやはり物事はスムーズに運ばないと。そういう意味では当然、次の就学前とか接続を大切にするという意味では非常にありがたいことです。

今回は平成24年度につくった就学前教育プログラムを改定していこうということなので、すけれども、実際には時代は流れているので、こういった改定を何となく思いつきの改定ではなくて、ある程度きりがいい、我々がよく使っている数字で大体学校なんかだと3年見直し、5年改定とか、学校も3年、6年で変わっていくわけですから、そういう意味では常にそういったルールで。やっていないからそろそろやろうかというイメージを与えるようなやり方はよろしくなくて、3年たったから見直していく、それがシステマチックに考えていくやり方になるのではないかなと思います。今回つくったら、今度は何年後に見直すかということも考えながらつくっていくと、つくる側のほうも検討しながらスキルアップできるのではないかなと思います。

ですから、今回なんかでも重点とさっきは言いましたけれども、そういった重点項目というのも多分変わってくると思うので、今回は誰に重点を置いてそちらをメインに。全部

やりたいというのはたしかなのですけれども、ある程度重点を決めて取り組んでいく。それが解決されたら3年後は次の重点項目を上げていくと。先生方に申し上げるようなものではないのですけれども、一般的なやり方で、ちゃんとステップを踏んでやっていただきたいなと思っております。そういう意味では「中野区運動遊びプログラム」も26年、これも随分古いですからこのあたりも今年度は難しくても来年度とか、一つずつやっていっていただきたいなということをお願いしたいと思っております。これは要望です。よろしくお願いいたします。

田辺教育長

おっしゃるとおりだと私も思っています、今回、今まではなかなか組織的な対応ができていなかったということもありまして、手がつけれなかったところもあるのですけれども、区政全体あるいは教育委員会全体のPDCAというか、見直しで進めていくということもありますので、そういうことをちゃんと視野に入れたプログラムにしていきたいと思っています。ありがとうございます。

ほかにございますか。

小林委員

こうした内容のときに、私は毎回申し上げているのですけれども、これはこれで非常にいいと思いますし、ぜひ力強く押し進めていただきたいと思うのです。

この中で見ると「中学校」という文字は3番に入っているだけなのですが、保幼小の連携も非常に重要で、先駆的に中野区はそういったことをかなり昔からやっているわけなのですが、やはり「中」もいろいろな形で参画させていくということが大事なかなと思います。中学校の先生がそういったものをしっかりと把握することは、中学校の指導にも生きると思いますし、逆に中学校の先生のさまざまな発言なりいろいろなことが就学前教育にも刺激を与えらると思うのです。

ですから、連携が重要ですが、その小中連携の先には保育園・幼稚園があるわけですからぜひそういう視点で、例えば中学校はなかなか忙しいからということもあると思うのですが、実はそういった部分をしっかりとボディブローのようにやっていくということは、中学校の教育の充実にもつながると思います。いろいろな機会に、全員は無理にしても例えば生活指導主任の研修にこういったものをうまく組み入れるとか、そうせざるを得ない状況を組み込んでいって一層の充実を図っていただきたいなと思います。

以上です。

田辺教育長

参考にさせていただきたいと思います。

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、本報告は終了させていただきます。

続きまして、事務局報告の2番目「平成30年度中野区教育委員会『学校教育向上事業』研究指定校等について」の報告をお願いします。

指導室長

「平成30年度中野区教育委員会学校教育向上事業研究指定校等について」のご報告をいたします。

学校教育向上事業研究指定校は、中野区の教育課題について積極的に実践・研究活動に取り組むもので、一般に研究期間は2年間です。資料をご覧ください。上の枠6校は、その研究の2年次、下の5校は研究1年次の指定校となります。研究テーマを大まかに申し上げれば、小中連携教育、学力向上、体力向上、特別支援教育などにかかわるものです。今年度の研究発表または中間報告は、表の右のとおりでございます。研究2年目を迎える6校につきましては、いずれも研究発表を行います。

今年度から取り組む1年次5校につきましては研究を深め、検証しながら2年目の成果発表を目指しますが、武蔵台小学校は1年次ではありますけれども今年度、中間発表を行います。また、上鷲宮小学校につきましては1年のみの研究指定となります。これは1年だけで簡単に終わらせるという意味ではなくて、上鷲宮小学校はかねてよりかみさぎ幼稚園やとちの木保育園との保幼小連携を進めております。その研究を進めているのですけれども、今年度は特にスタートカリキュラムの実施に特化した研究をこちらの小学校に進めていただき、その成果を再来年の小学校学習指導要領全面実施にあわせるようにしたためでございます。そういうことで1年に特化した研究をやっていただくということでございます。

裏面をご覧ください。右側になります。こちらは東京都教育委員会が今年度指定した研究指定校です。今年度は小学校3校、中学校3校が指定されております。内容は、人権教育、プログラミング教育、オリンピック・パラリンピック教育、道徳教育、体力向上に係る実践研究で、多くは1年間の研究指定ですが人権尊重教育推進校は2年間、スーパーアクティブスクールは3年間、道徳教育推進拠点校は本来2年間なのですが、第八中学校は1年延長して3年目の研究実践を行っているところでございます。

ご報告は以上です。

田辺教育長

ただいまの報告につきまして、質問等ご発言がありましたらお願いいたします。

田中委員

質問なのですけれども、最近、プログラミング教育というのをよく聞くのですけれども、プログラミング教育が生きる力の育成とどんなふうにつながっているのかというのをいつもいろいろ見ながら何となくわからないのです。簡単に教えていただければと思います。

指導室長

一般的にプログラミング教育とって、今回も企業とタイアップしてコンピューターを使ってロボットが動くようにとか、車が動くようにとか、そういう技術的なものをイメージしがちで、実は今回もそれをやるのですけれども、大事なのもう一方にコンピューターを使わないプログラミングの考え方を子どもたちに考えさせるという、思考の錬磨みたいなことも実はクローズアップされています。ですから、一般的に印象づけられるのはただコンピューターを使うのでしょうということなのですけれども、そういうことではなくて、そのもとになるような思考、例えば積み木を使って論理的に何かを組み立てていく。特に低学年なんかはそういうことをやっているのですが、今申し上げたように、そういうことを繰り返していけばただ単に機械を動かすということではなくて、そういう考え方で思考を錬磨していくことにつながってまいると思っております。

田中委員

わかりました。

田辺教育長

よろしいですか。ほかにございますか。

小林委員

各学校とも一生懸命こうやって取り組むのは非常にいいことだと思います。教育委員会の姿勢としては、もちろん学校のこういった研究、研修をどんどん促進していくということは重要ですが、一方で今、盛んに言われている忙しさの中でということですので、ぜひ今後の実践に結びつくというか。あまり体系的なことをやるのではなくて一点豪華主義でいいと思いますので、そういう指導のスタンスもあまり話を広げるのではなくて、この部分についてはしっかりやっていきましょうよと。しかもそれがこれからの各教員のキャリアというか、そういった中に生きるようなものであってほしいなといつでも思っています。

それから、せっかくこれだけのことをやっていただくわけですから、いろいろな場面で今までも工夫をしてきたと思うのですが、これを区内にどう啓発していくかというか、つなげていくかということも重要だと思いますので、そういうこともぜひまた工夫していただければという要望であります。

以上です。

指導室長

ありがとうございます。

渡邊委員

まず質問なのですが、今回資料に出ている右側と左側、左側カラーのほうは1年次、2年次。こちらのほうは中野区教育委員会の学校教育向上事業の研究ということで、このテーマを作成するに当たりどういった構成メンバーというか、今年の研究はこれをやろうよという。研究というのは結局テーマがあって初めてエビデンスになるわけですから、そのテーマを決めていくときに、学校側のテーマを中野区で決めているとすると、右側に書いてあるのは東京都のテーマということですね。東京都が中野区に指定したテーマというのは、例えば人権問題と道徳問題、それで、スーパーアクティブスクールというのは体力の問題。オリンピックみたいなトピックス、そしてプログラミング・コンピューターというところが入っているのですが、中野区はどちらかというと学力向上、英語力、プログラミング。ICTは我々お金をたくさん使って導入したのでどうやって使えるのかと一生懸命考えていこうというのはいいのですが、そういう意味では体力をつくろうとか、東京都に比べるとバランスの悪さを感じるのではないかなと。例えば体力を重点としたものがあったとしてもいいし、学力もあるし、それとか道徳教育とか。そういうある程度カテゴリーに沿ったテーマがあると、今後研究していく上ではよりいいのかなと。そうでないと、ちょっとこれを見ていると同じようなテーマであったり、体力とか運動とか、今の就学前の中には運動遊びだと言っておきながらテーマがないかなと。だから、今後そういった調査委員会とかでもそういうものもどういう形で決めていったのか、どういうことをやろうとしているのかというのを「見える化」していったほうがいいかなと思いました。これも私の感想です。

指導室長

ご指摘のとおりだと思います。区のテーマは、先ほどもちょっと触れさせていただいたのですが、我々としましては一応区として推進していきたいという重要なものとし

て挙げているのですけれども、実はある程度絞ったものではなくて、かなり広範囲にカテゴリーは出しているのです。その中で、それぞれの学校の状況で学校に選んでいただくとか、もっと言えば無理やりこれをやってくれと言っているわけではなくて、そういう中で今、ご自身の学校がこういうことをテーマにしているから、これはうちとマッチするなど。しかも無理なくちょうど校長がやらせたい内容だからということで選んでいただいているのが現状で、そういうことで少し偏り感があるかもしれないのですけれども、こちらとしましては、本当は広くいろいろなテーマが出てきて取り組んでいただきたいのです。あまりこちらが押しつけてしまいますとやらされ感になってしまいますので、先ほどご意見もいただきましたけれども、学校がみずからやってみたいなというものがある程度我々は示しているのですけれども大事にしていると。

それに対して、東京都のはこれありきなのですね。ですから、その中でどこか募集するところはないかということで言われても、それぞれの分野から来ているので、やるのだったらこれだよということで、どうしてもそういう散らばりとか偏りが出てきてしまうということで。ただ、なるべくいろいろな学校に特別に無理をさせるのではなくて、日ごろの教育活動の延長でこういうことが自主的に行われるような配慮を、今後もしてまいりたいと思っております。

以上です。

田辺教育長

よろしいですか。ほかにございますか。

それでは、本報告については終了させていただきます。

続きまして、事務局報告の3番目「平成31年度使用中野区立中学校教科用図書の採択に係る教科書展示会の実施について」の報告をお願いします。

指導室長

平成31年度中野区立中学校教科用図書の採択に係る道徳の教科書の展示会の実施について、ご報告いたします。

このことにつきましては4月20日の教育委員会において、区民からの意見聴取の方法として概要を説明させていただいたものでございます。

別紙をご覧ください。法定展示会は中野区教育センターで6月5日から28日まで、期間中無休で約1カ月行います。これとは別に巡回展示会として教育センター、野方図書館、中央図書館で順次行ってまいります。

各展示場には、画面でいいますと右側の意見用紙が備えられておりますので、区民の方にはこちらに記入していただいて投函していただくことにより、意見聴取を行ってまいります。

ご報告は以上です。

田辺教育長

ただいまの報告につきまして、ご質問等、発言がありましたらお願いいたします。

田中委員

前回、小学校の道徳の展示のときに、教育センターの展示会場へ1回伺ったのですが、なかなか知られていないというか、せっかく1カ月の長い期間あそこで展示しているのに、ノートを見たらいらっしゃっている方が少なかったのもちょっと残念な気もしたので、ぜひ周知に力を入れていただければいいなと思ったのと、もう1点、そのときに机の上に教科書がぶわっと並んでいるのですが、行っても一体何が何だかわからないみたいのところもあって。そういうことが可能かどうかかわからないのですが、ちょっとコメントというかそういうものがあると。一般の人が見に来たときに少し見る助けになるようなことが可能でしたらというお願いです。

小林委員

私も今に関連して、例えばこれは各地教委が採択をしていくのですが、都教委はそれを支援するというので、調査研究資料を作成しますね。それを都教委はホームページにアップしますから、その検索などの案内も各会場に置けば、興味関心の深い方はそういったものをあわせて教科書の分析とか調査研究資料を見ることができます。そうすると、この8種類の会社のそれぞれの内容はこの特徴があるのだなというのがよくわかると思うので、今、田中委員が言われたことはそういったことで解消するのではないかと思います。そういったご案内もあわせて無理なく、これはなかなか難しいでしょうけれども、場合によってはパソコンを置いておくぐらいのサービスをしてもらえませんか。

指導室長

できることを早速検討してまいります。

田辺教育長

よろしいですか。ほかにごございますか。

それでは、本報告は終了させていただきます。

続いて、事務局報告の4番目「中野区立中学校教科用図書選定調査委員会調査研究会の

設置について」を報告します。

ここでお諮りします。本件は人事に関する案件を取り扱うこととなりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、会議を非公開としたいと思いますがご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ありませんので、非公開とすることを決定しました。

渡邊委員

その前に、教育委員の活動報告を1点だけ追加させていただいてよろしいでしょうか。

次回でもよかったのですけれども、美鳩小学校の内科の健診を先日終わらせていただきました。美鳩小学校は皆さんご存じのとおり、統廃合した後、中野区で最大の生徒数を抱える学校になりました。生徒数は700名を超え、来年度はさらに生徒が増える、学級数も増えるという形になりました。

こちらは教育長初め、教育委員会からご配慮いただきまして、実際健診について700名を診るとなるとかなりの時間等がかかっている、サポートの医師をつけて、ほかの学校の校医さんが手伝いに来てくれて二人でやっていくという形になっております。

ルールの800を超えるとか、学級数が25を超えないと養護教員の補充という形はないようなのですけれども、中には300名を切った学校があって、一方倍しても足りないぐらいの学校となってくると区内での均衡といったほうがいいのか、そういうものも職員にとっては不満材料にもなりかねません。

それと700名を診ていると養護のほう、例えば統廃合して施設のハード面では先ほど言ったように何らかに対応できていくのですけれども、昔はそうだったとしても時代が違って、今の時代に即した形で、少しずつ生徒数の増加に伴ったソフト面での対応というのを検討していかなければいけないのではないかなと。

あまりクレームを言うてはいけないのですけれども、どうしても書類その他等においても手が回らなくなっているのではないかなとか、チェックとか、やらなくてもいい健診はやらないようにするとか、そういった形になってきているので。本来であればそういう形もあまり望ましくないということで、今後のあり方はルールにのっとって教育委員会のほうでいろいろとやっていただいているのですけれども、まだ課題を残しているのではないかなと思われましたのでご報告させていただきたいと思います。

田辺教育長

それでは、傍聴者のご退出の前に事務局から次回の開催について報告願います。

副参事（子ども教育経営担当）

次回でございますが、6月15日金曜日、10時から当教育委員会室にて開催を予定して
ございます。

以上でございます。

田辺教育長

それでは恐れ入りますが、傍聴の方はここで会場の外へご退出をお願いいたします。

（傍聴者退出）

（以下、非公開）

（平成30年第22回定例会における会議録の公開決定に基づき、個人情報に該当する部分
を除き、以下非公開部分を公開）

田辺教育長

それでは「中野区立中学校教科用図書選定調査委員会調査研究会の設置について」の説
明をお願いします。

指導室長

それでは「中野区立中学校教科用図書選定調査委員会調査研究会の設置について」、ご報
告いたします。

こちら4月20日の教育委員会において触れさせていただきましたが、道徳の教科書を
調査研究する委員が決定しましたので、ご報告いたします。

設置期間は平成30年5月21日から8月31日までです。

調査研究項目はほかのものと同じになりますが、内容、構成及び分量、表記及び表現、
使用上の便宜、特記すべき事項の5点です。

裏面をご覧ください。選定調査委員会への調査研究結果報告は平成30年6月20日を予
定しております。

調査研究会の委員ですが、下の別表をご覧ください。委員長は校長、委員には副校長と
教員を充てて、合わせて6名が調査研究に当たります。

ご報告は以上です。

田辺教育長

ただいまの報告につきまして、質問等、ご発言がありましたらお願いいたします。

田中委員

選定調査委員会への報告予定日が6月20日ということなのですからけれども、すごく期間がタイトな気もするのですけれども、実質的に必要な時間は大丈夫なのでしょうか。

指導室長

非常にタイトな中でお願いしているので、実はあらかじめ校長先生その他のところにお願いに参りまして、その中でぜひということで。学校のほうもさまざまな行事がある中で非常にご迷惑をおかけしているのですが、大丈夫とおっしゃっていただきまして、それで割り振りしているということで、ご無理を言って着実に進めさせていただいているところでございます。

田辺教育長

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、本報告について終了いたします。

田辺教育長

以上で、本日の日程は全て終了しました。

これをもちまして、教育委員会第15回定例会を閉じます。ありがとうございました。

午前11時10分閉会